

令和2年4月24日

☆大学受験を考えているみんなへ

志望校に合格するために(英語編)。

・関西の私立大学の入試問題は、主に「長文読解」、「文法」、「語彙力(単語・熟語)」、「会話文」で構成されています。

例えば、近畿大学の場合、I「会話文」、II「中文の空所補充問題」、III「文法」、IV「見出し文の意味を表す文を選ぶ」、V「単語力」、VI「並べ替え問題」、VII「長文読解問題」、を60分で解答します。近大の場合、この出題パターンは長い間、変わっていません。

さて、ある大学の出題比率が、おおざっぱに言って、長文読解70%、文法30%だったとします。合格ラインは70%とします。

→A(どの分野にも平均的な力持つ受験生)

長文49/70点(70%)、文法21/30点(70%)、計70点(70%) [合格]

→B(得意分野がある受験生)

長文43/70点(62%)、文法27/30点(90%)、計70点(70%) [合格]

→A(苦手分野がある受験生)

長文53/70点(75%)、文法15/30点(50%)、計68点(68%) [不合格]

苦手分野(この場合は文法)を持つことが、いかに怖いことか、わかってもらえると思います。

・「志望校合格」を目指すには、「長文読解力」、「文法力」、「語彙力」をバランスよく身につけることが重要です。加えて、得意分野があれば、それが合格の決め手となることも期待できます。

・「語彙力」

単語に関して言えば、「ターゲット1900」を最後まで習得できれば、関大、関学レベルの問題に対応できると思います。

では、あなたの志望校に対してどのぐらいの語彙力が必要なのかを考えます。例えば、摂南大学を目指す人がいます。過去問を解いてみて、わからない単語には赤線を引くことにします。この単語が「ターゲット1900」で、「何番の単語」なのかを確認していけば、摂南合格には、どのぐらいの単語力が必要で、今自分は(ターゲットで)どのぐらいまでの単語力を持っているかがわかると思います。

単語は、単語だけを覚えても、実際の文章で出会わないと、なかなか定着するものではありません。計画性を持って単語学習に取り組み、繰り返し覚える(2周目、3周目をす)ことで、定着を図ってください。

・「長文読解力」

学校の定期考査が同じぐらいの点の二人が、入試問題を解いてみると、スピードが全然違ったり、読解力に大きな差があることは少なくありません。入試では定められた時間の中で長い文章をさばいていく力が求められます。「時間があれば読めたのに（正解できたのに）」は「速読力がなかったので答えられなかった」ということにほかなりません。

「長文読解力」を身につけるには、過去の大学入試問題に取り組むことをおすすめします。また過去問の中でも、できるだけ「解説が詳しいもの」を選びましょう。「この大学は受験するつもりはないから」と躊躇する必要はありません。近大を受験する人が、練習として龍谷や京都産業の問題に取り組むのは有効な勉強方法です。入試問題は、「よく練られた良問であることが多い」からです。

さて、それを「どのぐらい」やるかということですが、最終的には「70%取れるぐらい」までやる必要があります（でなければ合格しません）。他の目安（回数的目安）としては、「1日1つ長文を解く」という「数的目標を立てる」という方法があります。仮にこれを実行すれば、6か月で180問の長文問題に接することができます。

勉強をし始めて、「自分は読むのが遅い」とか、「正確に内容をつかむことができない」と感じた人は、早く自己分析して、対策を講じる必要があります（読む長文の数をこなす、語彙力を高める、読解力向上のコツなどが書かれた問題集に取り組む、など）。

・文法力

文法は、得意な人と不得意な人が分かれる分野です。「文法は悪くても8割取れる」という人は、受験が楽になりますし、「文法はいつも6割程度しか取れないので、ほかの問題でその分を補わなければならない」という人は、常に厳しい受験を強いられることになります。

文法は、「不定詞」、「動名詞」、「分詞」、「仮定法」などすべての分野に対して、丁寧に解説を読みながら理解していく必要があります。これは、長い距離の「道路」をつくっていくようなものです。適当に道路をつくれれば、走りにくい道ができあがります。

「英語文法演習」の教科書 **New Frame 650** には **Mastering Aid** という別冊がついています。この解説はかなり詳しいので、これを見ながら教科書の **Frame** をやっていってはどうでしょう（英語文法演習の休校中の課題にもなっています）。「**Frame**の問題を解く」という学習に満足するのではなく、**Mastering Aid** に書かれている「解説」を理解することに重点を置いて取り組みましょう。

この学習を発展させるには、**New Frame** をやり終えてから、違う文法問題集に取り組むことです。例文や出題の形が違う問題で正解できて、その文法項目をマスターしたことになります。

・まとめ

上記のように、「長文読解」、「文法」、「語彙力（単語・熟語）」、「会話文」について、バランスよく勉強し、志望する大学が求めるレベルまで達したら「合格」です。基本的に入試というのは、そのように至ってシンプルなものであるはずですが、合格するために、丁寧に一歩ずつ進んでいく、走りやすい道路を築いていくという気持ちを持って日々、努力してください。